

昭和20(1945)年7月14、15日の両日、北海道はほぼ全域にわたってアメリカ海軍による砲爆撃を受けました。二日間の空襲と砲撃による被害は、不明な点も多いのですが、死者1,925人、重軽傷者970人、被災家屋6,680戸、罹災者33,400人(いずれも以上)に上ったとみられています。

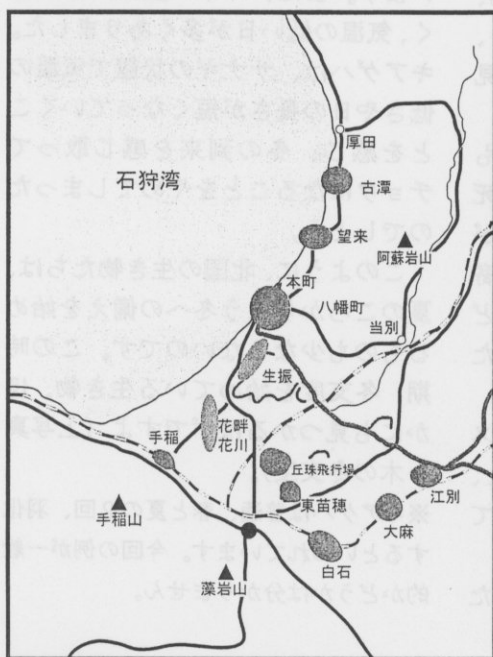
石狩町(当時)も、15日午前・午後の2度にわたって艦載機による攻撃を受けました。

午前の空襲は花畔地区に対する銃撃で牛、馬各1頭が犠牲となりました。

午後の空襲は、主に本町地区、八幡町が対象となり、30機以上のアメリカ海軍の艦載機が来襲しました。500ポンド爆弾、5インチロケット弾による爆撃と機銃掃射により、本町地区では3歳の少女を含む10人、八幡町では3人の、計13人の死者が出ました。

また、町役場庁舎、海浜ホテルを含む36戸が焼失しました。これは札幌市を含む石狩管内で最大の被害です。この時の機銃弾の薬きょうとロケット弾の一部、現在も市に残っています。(写真①②)

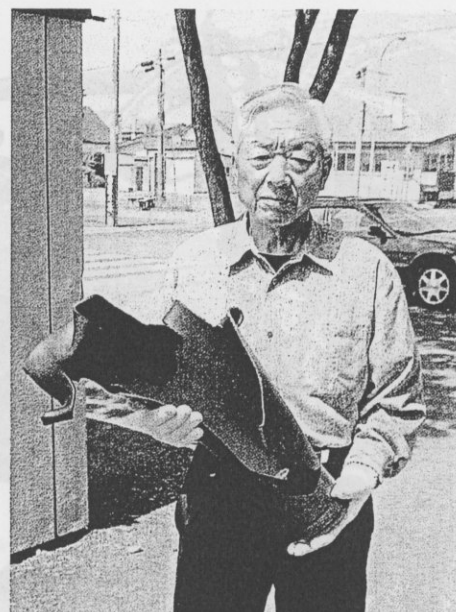
歴史のドアを開けよう Natural History 第45回
いしかり博物誌



▲石狩市および周辺の空襲
(『石狩空襲を語りつぐ』より引用)

石狩空襲

今も残る戦争の傷跡



▲写真① 5インチロケット弾の一部



▲写真② 米軍機が落とした12.7ミリ機銃の薬きょうと爆弾の破片

空襲については公的な記録が残されていない市町村がほとんどですが、石狩には石狩町役場が空襲の経過を記録した『戦災記録簿』と『罹災者名簿』が残されていて、爆撃の経過や被害の状況を知ることができます。

石狩市では毎年7月15日に、石狩空襲を含め戦争で亡くなった方々を慰霊する会を開催しています。(p 20 参照)

戦後半世紀を過ぎ、石狩空襲を経験した方々も少なくなっていますが、石狩の人々が経験した空襲の悲惨さを忘れないようにしたいものです。

(工藤 義衛)

参考文献
『石狩の空襲を語りつぐ』
昭和62年 石狩町郷土研究会

特別展「石狩空襲」
期間 8月12日(火)～17日(日)
場所 石狩市民図書館